

<金標準先物、NY 金のピークアウトを受けて 7800 円割れへ・・・>



(出所：オアシス)

10 月の消費者物価指数（CPI）は前年比 8.2%が 7.7%へ大きく低下している。それを受けてハーカー・フィラデルフィア連銀総裁は「今後数カ月で利上げペースが減速と予想する」と発言し、12 月の FOMC で 0.5%の利上げ観測が高まりを見せている。また WGC（ワールド・ゴールド・カウンシル）は第 3 四半期に中央銀行が過去最高の 399 トンの金購入を行ない価格押し上げに貢献したと発表するなど、中国の購入が話題となり NY 金は 8 月以来の 1791.8 ドルまで上昇している。

しかしボスティック・アトランタ連銀総裁やブラード・セントルイス連銀総裁などは利上げ継続を示唆し「5%～5.25%が目指す金利の最低水準」と述べるなど金利上昇を受けだすと金利高：ドル高でピークを付け 1754 ドルまで下げている。特に金標準先物は円安の動きもあり、緩やかに下げだすと 8044 円から 7865 円まで下値を追っており、今週は再度 7800 円割れを試す可能性は高まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD では、MACD とシグナルのクロスが発生し、RCI でも短期が下げながら長期は上昇が止まるなど、40 日移動平均線が位置する 7835 円に向けた下値追いに注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,210,000 円(2022 年 11 月 21 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 11 月 21 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>